

カルロ・カルターリによるコッレージオ・ロマーノの図書館の
視察記録に関する研究
- ボッロミーニの図書館の計画の一考察として -

岩谷洋子*

Analysis of Carlo Cartari's Visit Record of Collegio Romano
- As a Study of Francesco Borromini's Library Planings -

Yoko IWAYA*

Abstract

Analyzing the Carlo Cartari's visit records of large libraries in Rome, it can be understood that he observed not only the bookshelf, but also the position, scale, structure, length, width and height of the library, and noted to the balance, the layout of the windows, and the external environment.

In the visit record of the library in Collegio Romano in early 1660 (ASR, Cartari-Febei, vol. 185, c. 72v.), the depth of library was about the same as Alessandrina Library at the University of Rome, but the narrower width and the lower ceiling height. It emphasized the perspective a deeper feel, with continuous vault.

All the bookshelves were in the same height, divided 8 stages, and it is possible to add 4 more stages. The tables were also utilized as bookshelves in the bottom.

The library of Collegio Romano was monumental, but rather than the magnificent expanse of space, the capacity was maximized on the plan. Borromini and Cartari were sure to refer to its rational method of design, for the bookshelf planning of Alessandrina Library.

1. はじめに

17世紀ローマで活躍した建築家フランチェスコ・ボッロミーニ Francesco Borromini (1599 - 1667年) は、1637 - 50年にローマのオラトリオ会 Congregazione dell'Oratorio a Roma の施設の全体計画を担当し、1642 - 44年に、その図書館であるヴァッリチェッリアーナ図書館¹⁾ Biblioteca Vallicelliana を建設した。前年度の

本紀要においては、ボッロミーニのヴァッリチェッリアーナ図書館の計画に対する考えや、デザイン上の工夫・創意を理解するために、図書館の大広間【Fig. 1】を、主にパラッツォ・バルベリーニ Palazzo Barberini 内に設けられたバルベリーニ図書館²⁾ Biblioteca Barberina と比較した³⁾。本稿では、ボッロミーニによるローマにおける図書館の計画にまで視野を広げ、

*駒沢女子大学 非常勤講師

イエズス会のコッレージオ・ロマーノ Collegio Romano (ローマ学院) 内に設けられた図書館⁴⁾ (以下コッレージオ・ロマーノの図書館と表記する) 【Fig. 2 a, 2 b】を考察する。

コッレージオ・ロマーノ 【Fig. 3】は、16世紀後半にローマにおいて現在の地に創設されたイエズス会の教育施設である。オラトリオ会もまた、イエズス会と同様に、対抗宗教改革期に創立し、16世紀末からは、ローマの都心部を拠点として活動し、大規模な施設を構えようとしていた。17世紀前半にオラトリオ会の全体計画を担当したボッロミーニにとっても、イエズス会の建築は、敷地の形状から建物の細部に至るまで、やはり参照すべき対象であった。このことは、ボッロミーニの建築書とされる『オプス・

アルキテクトニクム』⁵⁾の中で、コッレージオ・ロマーノの計画が度々言及されていることから明らかである。さらに、ボッロミーニが描いたコッレージオ・ロマーノの南側広場に面する広大な正面ファサードのスケッチ⁶⁾からも、この建築に対するボッロミーニの関心が窺われる 【Fig. 4】。

ところで、ヴァッリチェッリアーナ図書館の他に、ボッロミーニは、ローマ大学の図書館であるアレッサンドリーナ図書館 Biblioteca Alessandrina の計画を担当した⁷⁾。当時、法律家で教皇記録文書副長官のカルロ・カルターリ Carlo Cartari (1614-97年) は、その計画の顧問を務め、度々ボッロミーニとともに、ローマ市内の大規模な図書館を視察に訪れた。本稿においては、カルターリが書き留めた視察記録に含



Fig. 1 オラトリオ会のヴァッリチェッリアーナ図書館の大広間 (西側から東方向を眺める)



Fig. 2b イエズス会のコッレージオ・ロマーノの図書館 (交差部から短軸の西方向を眺める)



Fig. 2a イエズス会のコッレージオ・ロマーノの図書館 (北側の入口から長軸の南方向を眺める)



Fig. 3 コッレージオ・ロマーノの南側のファサード

まれるコッレージオ・ロマーノの図書館についての手稿を史料として取り上げた。

2. コッレージオ・ロマーノの図書館について

2-1. コッレージオ・ロマーノの全体計画

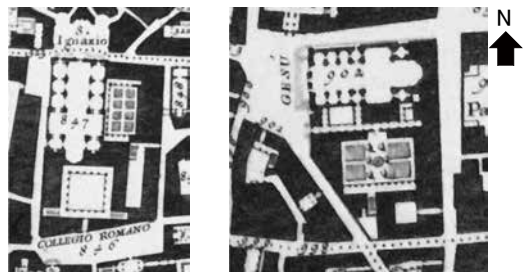
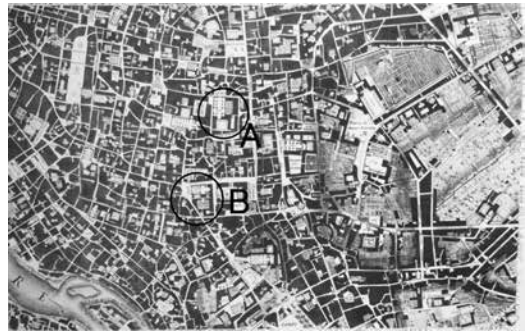
本章では、まず、コッレージオ・ロマーノの建物全体の計画を確認し、次に、同図書館の計画を考察する。

イエズス会 Compagnia del Gesù は、イグナティウス・デ・ロヨラ Ignacio de Loyola (1491-1556年) を総長とし、1540年9月にローマで教皇パウルス3世(在位期間1534-49年)から修道会としての正式な認可を受けて創設され、同年11月から、活動拠点としてヴェネツィア広場付近に建設活動を展開した⁸⁾【Fig. 5のB】。当時イエズス会は、ファルネーゼ家の庇護下にあり、特にイル・ジェズ聖堂 Chiesa del Gesù の建設には、著名な建築家・美術家が関わり、大規模で豪華な聖堂が建立され、その強く印象に残る表現は、宣教上の大きな効果があった⁹⁾。

さらに、イエズス会は、その近くに、公的な教育施設として学生を受け入れるコッレージオ・ロマーノの建設に取りかかりつた【Fig. 5のA】。コッレージオ・ロマーノは、1551年の創設当初に、カンピドーリオ広場 Piazza del

Campidoglio の周辺に小さな貸家を利用して設けられたが、学生数が急増し、何度か場所を移転せざるをえなかった¹⁰⁾。コッレージオ・ロマーノが、現在のように、ローマの中心部を南北に貫くコルソ通り Via del Corso を西方に曲がってすぐの場所に敷地を構えるようになったのは、1560-67年におけるイエズス会の建築家ジョヴァンニ・トリスタノ Giovanni Tristano (1541-1605年) の計画に始まる¹¹⁾。大規模な1つの複合体としての建物の内部に、イエズス会士たちの日常生活と宗教活動のための施設、および教室・寄宿舎などの学生たちのための場所が併設されねばならず、計画の創案と実現は、容易には進まなかった。

当時のイエズス会第2代総長ディエゴ・ライネス Diego Lainez (1512-65年) は、困難な



A コッレージオ・ロマーノ B イル・ジェズ聖堂と誓願修士の施設

Fig. 5 ノッリによるローマ地図の中心部分(1748年)とその部分的な拡大

A (上の円) コッレージオ・ロマーノ

B (下の円) イル・ジェズ聖堂と誓願修士の施設

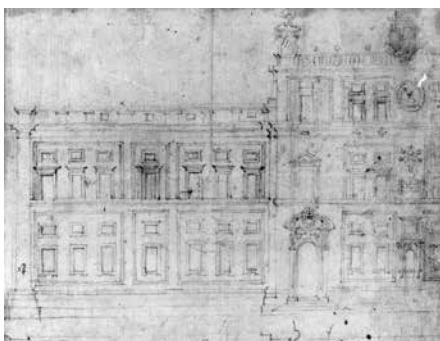


Fig. 4 ボッロミーニによるコッレージオ・ロマーノの南側のファサードのスケッチ
Albertina, Az Rom 886, Wien.

建設計画を成就するにはトリスタノが適任であると、また、イエズス会の「我々の様式 il modo nostro」について、よく理解している者は、トリスタノの他にいないとして、トリスタノを高く評価していた¹²⁾。イエズス会士である研究者 P. ピッリは、トリスタノによるコッレージオ・ロマーノは、一方では、中世のベネディクト会修道院の中庭を、もう一方では、ルネサンス時代の貴族の邸宅建築を、その形態に採り入れて考案されたと見做し、以下のように、その具体的な配置計画を説明した¹³⁾。すなわち、一つの広々とした中庭の回りには、イエズス会士のための様々な部屋が配置され、もう一つの中庭は、学生の勉学のための場所に充てられる。イエズス会士の中庭においては、地上階に門衛所や接待室の他に、食糧庫、馬屋などが備えられ、2層目には調理場、食堂、談話室、そして図書館、居室、3層目には居室と貯蔵室が配置される。学生の中庭には、地上階に教室が配置され、中庭からポルティコを介して教室に出入りする。これらの他に、寄宿生のための場所として、3つ目の中庭が設けられた。教会堂は、イエズス会士と学生の双方から通うことが容易であるように、それらの間に位置づけられた。

実際に、教皇グレゴリウス13世（在位期間1572-85年）が即位する前までに作成された平面図において、敷地境界線沿いの建物の外郭に囲まれた内側は、3つの中庭により区画され、教会堂を挟んで北側にイエズス会の施設を、南側には教室を配置する構想であった¹⁴⁾。また、ライネスの「我々の様式」という言葉は、イエズス会の建築計画において、厳密に従うべき設計法や意匠表現というよりも¹⁵⁾、その宗教活動を実践するために利用しやすくまとめられた機能的な計画案として、欧州各地の計画を監督して回ったトリスタノが生み出した、好ましいあ

るべき形として解釈することができる。ピッリは、トリスタノによるコッレージオ・ロマーノの計画案が、イタリアを越えた各地に展開したと述べるが、イタリアだけでなく、欧州各地の様々な状況下にある多くの施設において、イエズス会の活動内容を熟知したトリスタノによるコッレージオ・ロマーノの計画案が、受け入れられ引用されたものと考えられる。

その後、イエズス会は、教皇グレゴリウス13世から資金援助を受け、コッレージオ・ロマーノの敷地を拡張し、1581年に次段階の建設計画に取りかかり¹⁶⁾、1584年にかけて、イエズス会の建築家であるジュゼッペ・ヴァレリアーノ Giuseppe Valeriano (1542-96年) が計画を指揮した。この第2段階における計画には、バルトロメオ・アンマナーティ Bartolomeo Ammannati (1511-92年) や、ジャコモ・デッラ・ポルタ Giacomo Della Porta (1532-1602年) ら、イエズス会の外部の建築家たちも関与したとされる¹⁷⁾。ヴァレリアーノは、ナポリやシチリア、ジェノヴァだけでなく、バイエルンやリスボンにまで、イエズス会施設や教会堂の建設のために赴き、頻繁にローマを不在にしていたから、常時コッレージオ・ロマーノの建設現場で監督をしていたわけではない。したがって、ヴァレリアーノがイエズス会の教育施設の典型となるコッレージオ・ロマーノの基本計画案を示し、それに対して著名な建築家たちが助言やデザインをし、計画が進められたと推察される。

1582年に着工された第2段階の計画は、アントニオ・テンペスタ Antonio Tempesta (1555-1630年) による1593年のローマの都市図【Fig. 6 a, 6 b】に表され¹⁸⁾、西側から見た建物の中央には、規模が拡大された教会堂が、ファサードを正面（西側）に向けて描かれている。その右（南）側には、高さのある学院が建設されたが、左（北）側の部分は、未完成である。

イエズス会の施設に相当する教会堂の北側の部分は、1598年からジロラモ・ライナルディ Girolamo Rainaldi (1570-1655年) により改築され、その様子は、1625年のジョヴァンニ・マッジの都市図の中に描かれている¹⁹⁾【Fig. 7】。

その後、これまでの教会堂を含む建物の北側の部分が取壊され、1626年にオラツィオ・グラッシ Orazio Grassi (1583-1654年) により、大規模な聖イニャツィオ聖堂 Chiesa di Sant'Ignazio が新たに建立された²⁰⁾。これが建設計画の第3段階であるが、さらに、この時、建物の南側の広場が拡張された²¹⁾【Fig. 5のA、および Figg. 8, 9】。

2-2. コッレージオ・ロマーノの図書館の計画

コッレージオ・ロマーノの図書館は、前述した計画の第2段階、すなわち1581-84年に計画された。しかし、近代になってコッレージオ・

ロマーノの建物は、軍隊により接収され、図書館もまた、大きく改変されていった。幾度か名称が変更され、また、ローマにおける他の図書館から大量の書籍が運び込まれたが、それでも、図書館としての機能は、現在に至るまで維持されてきた。

図書館は、建物の南側に設けられた正方形の中庭の東側の2層目(イタリア語では、1階 il primo piano と呼ぶ)に、南北方向を長軸として配置された²²⁾【Figg. 9, 10】。この長軸【Fig. 2a】に対し、東西方向の短軸【Fig. 2b】が北よりで交わり、図書館の平面は、ラテン十字形をなす【Fig. 10】。図書館の入口は、北側に設けられた(【Fig. 10】ではAと記される)。スウェーデン女王クリスティーナが、1656年に図書館を訪れ、当時の図書館には、大空間に無

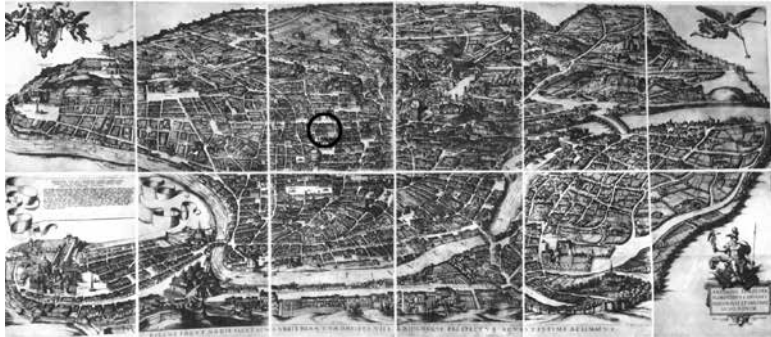


Fig. 6a テンペスタによる都市図(1593)
○の印(筆者記入)がコッレージオ・ロマーノ



Fig. 6b テンペスタによる都市図(1593)
コッレージオ・ロマーノの拡大(西側のファサードを見る)



Fig. 7 マッジによる都市図(1625)コッレージオ・ロマーノの拡大(西側のファサードを見る)



Fig. 8 テンペスタによる都市図(1661)コッレージオ・ロマーノの拡大(西側のファサードを見る)

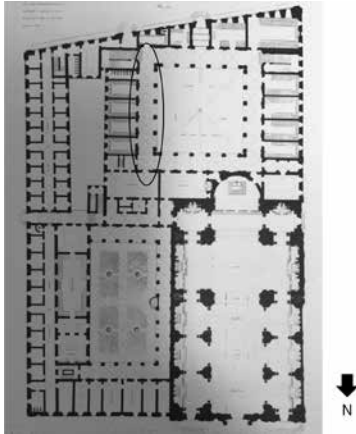


Fig. 9 ルタレイーによるコッレージオ・ロマーノの平面図 地上階 (1840)
楕円部分 (筆者記入) の上部が図書館

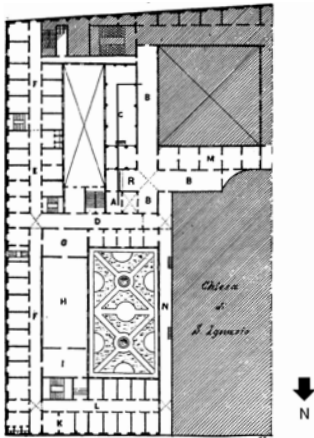


Fig. 10 コッレージオ・ロマーノの2層目の平面図 (1893) Bで示された部分が図書館

数の書物が並べられ、多くの稀覯本が保管され、また、書籍を寄贈した人物の肖像画などが飾られていて、女王が本棚の前で足を止め、しばらくの間その場にとどまって眺めていたほどであったと記されている²³⁾。

3. カルロ・カルターリによるコッレージオ・ロマーノの図書館に関する記録について

3-1. カルターリによるローマ市内の図書館の視察

ボッロミーニは、1642年にパラッツォ・デッ

ラ・サピエンツァ Palazzo della Sapienza (当時のローマ大学の建物) の計画を開始し²⁴⁾、東西方向に長い長方形平面の建物の東側中央に聳えるサンティエーヴォ・アッラ・サピエンツァ聖堂 Sant'Ivo alla Sapienza の献堂式を1660年11月に終え、一方で、その前年の1659年3月末日から、図書館を建設する予定の敷地の北東部分を取壊し始めていた²⁵⁾。図書館は、建物の2層目の東角部分に位置し、当時の教皇アレクサンデル7世 (在位期間1655-67年) の名を冠し、アレクサンドリーナ図書館 Biblioteca Alessandrina と称された。

アレクサンドリーナ図書館の建設の顧問を務めたカルロ・カルターリ Carlo Cartari (1614-97年) は、本棚のデザインの参考にしようと、ローマ市内の大規模な図書館を見学しに訪れ、視察記録を残していたが、記録には何度か、ボッロミーニを同伴して出かけたことが明記されている。

カルターリの記録から、訪れた図書館を時間軸に沿って確認すると、まず、ボッロミーニが計画したオラトリオ会のヴァッリチェッリアーナ図書館を、1659年6月²⁶⁾と、次いで1660年3月2日²⁷⁾に、見学した。それから5年ほど経過した後、1664年11月に、カルターリはパリのマツァリーニ図書館を訪れ²⁸⁾、年が明けた1665年1月末日には、ボッロミーニとともにバルベリーニ図書館を訪れた²⁹⁾。バルベリーニ図書館は、バルベリーニ家出身の教皇ウルバヌス8世 (在位期間1623-44年) の甥にあたる枢機卿フランチェスコ・バルベリーニ Cardinale Francesco Barberini (1597-1679年) の所有であった。この私的な図書館が選択された理由としては、勿論、大量な蔵書が収められた規模の大きさや、カルターリがバルベリーニ家の教皇や枢機卿に仕えていたことが挙げられる。それに加えて、ボッロミーニが、その師匠であっ

たカルロ・マデルノ Carlo Maderno (1556-1629年)のもとでパラッツォ・バルベリーニの建設計画に参加し、その当時からヴォールト架構を施した大空間をもつ図書館に、強く関心を寄せていたことも、動機として考えられる³⁰⁾。カルターリの一行は、同日に、その近隣に建つ跣足三位一体修道会の施設内のサン・カルロ・アッレ・クアットロ・フォンターネ修道院図書館 Biblioteca di San Carlo alle Quattro Fontane にも足を運んだ³¹⁾。この図書館は、他と比べて規模が格段に小さかったが、ポッロミーニが計画から建設まで一貫して実現させ、その独創性が顕著に表されていた。

カルターリがコッレージオ・ロマーノの図書館を見学した記録は、1660年3月18日の日付である³²⁾。したがって、アレッサンドリーナ図書館の建設が開始されてから間もなくのことで、前述のヴァッリチェッリアーナ図書館と同じ頃である。カルターリは、視察の同伴者について何も記していないこともあるが、コッレージオ・ロマーノの図書館の記録においても同様である。しかし、当然、カルターリは、ポッロミーニと意見交換をし、コッレージオ・ロマーノの図書館を、視察踏査すべき対象として選択したと考えられる。

これら複数の図書館に関する記録全体³³⁾を通して、カルターリの図書館の設計に対する着眼点や記述方法が読み取れる。カルターリが注意して見学したのは、主たる目的であった本棚のデザインだけではなく。同時に、カルターリは、図書館の建物内の位置づけや規模、構造上の特徴にも気を配り、具体的な寸法や、長さ・幅・高さの釣り合いを考察した。このような図書館の内部構成や機能性・利便性に加え、屋外環境も視野に入れ、窓の配置や採光、外部環境との関係にまで細かく注意が行き渡り、気付いた点が書き留められたのである。

3-2. カルターリによるコッレージオ・ロマーノの図書館の視察記録

さて、コッレージオ・ロマーノの図書館についての記録では、カルターリは、文頭で、図書館の大空間の長さを50パッソほど(約37m)で、長さについてはアレッサンドリーナ図書館とほぼ同じであるとした。しかし、幅はそれより少し狭く、天井高もより低いと見做した³⁴⁾。アレッサンドリーナ図書館は、10 mほどの幅に対し、3倍を超える37 mという深い奥行をもつ。しかし、各柱間には1つずつドームを載せ、合わせて3つのドームに分節された上部構造である。これに対し、コッレージオ・ロマーノの図書館においては、入口から入って北側から長手方向を眺めると、【Fig. 2 a, 10】、ヴォールト天井が奥へと連続し、さらに、幅はより狭く、高さもより低いので、見通しには奥行のみが強調され、強く奥まった感じがする。

一方、その半年ほど前に訪れたヴァッリチェッリアーナ図書館【Fig. 1】に対し、カルターリは、文頭で「大きな空間で収容力がある voto e capace」と記し、本棚の支柱にも「広々とした spatiosa」、「素晴らしい見渡し bella veduta」との言葉を用いて高く評価した³⁵⁾。ヴァッリチェッリアーナ図書館の奥行きは、100パルモ(約22 m 30 cm)、幅55パルモ(約12 m 27 cm)で、幅に対する奥行は2倍程度ある³⁶⁾。バルベリーニ図書館もまた、奥行101パルモ(約22 m 52 cm)、幅48パルモ(約10 m 70 cm)で、ヴァッリチェッリアーナ図書館と同程度の規模で、幅に対して2倍程度の奥行をもつという点でも、両者は一致する³⁷⁾。アレッサンドリーナ図書館の幅は、これら2つの図書館と大差ないが、奥行方向は、2つの図書館より17 m以上も長い。奥行方向は、ドームにより大きく3つに分節され、見通しはより緩やかに感じられる。コッレージオ・ロマーノの図書館の奥行も

また、2つの図書館より17 m以上長いうえに、より狭い幅と低めのヴォールト架構により、広々とした空間の見通しを得るには、奥行の深さが強調されすぎていた。利用可能な奥行を最大限に長く取るなら、書籍の収容力は大きくなるとしても、ヴァッリチェッリアーナ図書館のような壮大な見渡しにはならない。

さらに、ヴァッリチェッリアーナ図書館においては、オラトリオ会の創始者フィリッポ・ネーリ Filippo Neri (1515-95年)、および初代図書館司書の枢機卿チェザレ・バローニオ Cardinale Cesare Baronio (1538-1607年)らが祀られ、この壮大な内部空間を見渡したカルターリは、強い記念性もまた受けとめたと考えられる。一方、コッレージオ・ロマーノの図書館には、「コルシニ閣下の肖像の油絵 *Ritratto in tela d'Imperatore d'Mons. Corsini*」³⁸⁾が据えられてはいるものの、図書館を含む建物全体が、壮麗な装飾性や記念性の表現よりも、むしろ都市ローマの中心部に獲得した貴重な敷地を、余すところなく利用する方針で³⁹⁾、書籍の収容力を求め、可能な限りの場所が合理的に計画された。

図書館を見渡したカルターリは、次に、本棚に目を向けると、それは全て等しく通常のデザインが施された本棚で、1層のみの構成の中は8段に分けられ、本棚の上部には、さらに4段を加えることが可能であると判断した⁴⁰⁾。カルターリによる「通常のデザイン *disegno ordinario*」という言葉は、ヴァッリチェッリアーナ図書館の本棚において、ポッロミーニがオーダーの規律に則ることなく、独自のデザインにより細い支柱を設けた本棚に関連した表現であろう。カルターリは、ポッロミーニによるこの支柱を、視界を妨げずに広々とした空間を創り出したという点で、高く評価していた⁴¹⁾。一方、コッレージオ・ロマーノの図書館の本棚

は、高さ方向に途切れることなく、連続しているとのことで、平坦な造りであった。その上部に4段の増設が可能であるとし、空いている部分にも注意が向けられているが、印刷本が出回る時代になって、大規模な図書館にとっての重大な課題は、著しく増加する書籍に、将来的に対応可能な収容力を備えておくことであったからである。ヴァッリチェッリアーナ図書館においては、2層構成の本棚の上に、必要であれば3層目を設けることができ⁴²⁾、計画当初から本棚の増設に配慮がなされていた。実際、ヴァッリチェッリアーナ図書館は、多くの書物の寄贈を受け入れてきた。

これに対し、バルベリーニ図書館においては、ヴォールト天井のすぐ下まで達する本棚には、全てに書籍が満たされ、既に建物内の他の部屋にも、書籍が余裕なく収められていた。カルターリが来訪した際には、館内の長さ方向いっばいに、その上部を読み書きに使えるようにした低い2列の本棚が設けられ、収容力を高めていた⁴³⁾。コッレージオ・ロマーノの図書館においても、同様な工夫がなされ、公証人が使用する台の形をしたものが設けられ、その上面は勉学にも利用されるが、下の部分には本が収納される⁴⁴⁾。

また、カルターリの記録では、コッレージオ・ロマーノの図書館の壁沿いに連続する本棚は、かなり高さが抑えられてはいたものの、その上方の部分に窓が配置され、所どころ遮られていたとされる⁴⁵⁾。窓によるリズムをとる形で、本棚は連続していたのであった。そして、それぞれの本棚に並べられる書籍は、主題ごとに紙の札により分類されていた⁴⁶⁾。

5. 結び

カルロ・カルターリによるローマの図書館の視察記録には、本棚だけでなく、建物内の図書館の位置づけや規模、構造、長さ・幅・高さの

寸法と釣り合い、さらには、窓の配置、外部環境などに至るまで、注意して書き留められている。

そこに収められた1660年初めのコッレージオ・ロマーノの図書館の記録（ASR, Cartari-Febei, vol. 185, c. 72v.）には、当時ポッロミーニが計画中であったアレッサンドリーナ図書館と比較され、図書館の37 mの奥行はほぼ同じだが、幅はそれより少し狭く、天井高はより低いと記された。さらに、連続するヴォールトの架構でもあり、コッレージオ・ロマーノの図書館の空間においては、奥行方向が強調され、その見通しは奥まった感じが強かったと推察される。

本棚は、書見台が突出する以外は平坦な造りで、その上部は、将来的な書物の増加にも対応可能である。また、勉強などをとする台の下も、本棚として利用されていた。このように、コッレージオ・ロマーノの図書館においては、壮大な空間の見渡しよりも、書物の収容力が重視され、利用可能な場所が無駄なく活用されていた。

ポッロミーニとカルターリは、印刷本の時代において大規模な図書館が抱える莫大な蔵書の収納だけでなく、飛躍的に増加する書物に対応する将来的な収容力についても、コッレージオ・ロマーノの図書館の合理的な計画において確認し、アレッサンドリーナ図書館の本棚の計画においても参考にし、いっそうの熟慮を重ねたと考えられる。

略式表記

ASR: Archivio di Stato di Roma. (ローマ国立古文書館)

Connors, 1980: Connors, Joseph, *Borromini and the Roman Oratory: Style and Society*, New York, The Architectural History Foundation; Cambridge, Massachusetts

and London (England), The MIT Press, 1980.

Ragguali, 1968: Del Piazzo, Marcello, *Ragguali borrominiani*, Roma, Ministero dell'interno, Pubblicazioni degli Archivi di Stato LXI, 1968.

Vetere - Ippoliti, 2003: Vetere, Benedetto - Ippoliti, Alessandro, *Il Collegio Romano - Storia della costruzione*, Roma, Gangemi Editore, 2003.

注

- 1) Connors, 1980, p. 49. 当時のヴァッリチェッリアーナ図書館は、現在、「ポッロミーニの広間 Sala Borromini」と称し、講演会などに利用されている。現在のヴァッリチェッリアーナ図書館は、施設建物内の同階において、その北側の場所で運営されている。
- 2) バルベリーニ図書館は、1902年に、所蔵していた書物がヴァチカン図書館に移され、現存しない。Connors, 1980, Pl. 133; Waddy, Patricia, *Seventeenth - Century Roman Palaces: Use and the Art of the Plan*, New York, The Architectural History Foundation; Cambridge, Massachusetts and London (England), The MIT Press, 1990, pp. 200-202.
- 3) 本紀要において、図書館の計画に関する分析を行ってきた。拙稿：「フランチェスコ・ポッロミーニによるローマのオラトリオ会におけるヴァッリチェッリアーナ図書館の計画に関する考察」駒沢女子大学『研究紀要』第25号 2018年12月 pp. 229-248；「フランチェスコ・ポッロミーニによるローマのオラトリオ会におけるヴァッリチェッリアーナ図書館の大広間の計画に関

- する考察」同 第26号 2019年12月 pp. 141-155.
- 4) コッレージオ・ロマーノは、1870年にイタリア軍により接収され、国立ヴィットリオ・エマヌエーレ2世図書館 Biblioteca Nazionale “Vittorio Emanuele II” として、1873年より、ローマの59の宗教施設に保有されていた書籍が収集された。その後、1885年からはローマ国立中央図書館 Biblioteca Nazionale Centrale di Roma として利用された。1989年に、ここに国立考古学・美術史学図書館 Biblioteca di Archeologia e Storia dell’Arte が置かれたが、1993年に、修復を終えたパラッツォ・ヴェネツィア Palazzo Venezia に、その機能が移されて以来、コッレージオ・ロマーノの図書館は、その分館として運営されている。なお、中心となる大広間は、平面が十字形をなすことから、クローチエーラ大広間 Sala Crociera と称される。Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 105-107.
- 5) Borromini, Francesco, *Opera del Cav. Francesco Borromino Cavata da Suoi Originali cioè L’Oratorio, e Fabrica per l’Abitazione De PP. Dell’Oratorio di S. Filippo Neri di Roma; Con le vedute in Prospettiva, Con lo Studio delle Proporzioni Geometriche, Piante, Alzate, Profili Spaccati, e Modini,....* (edizione di Sebastiano Giannini, Roma, 1725) , in Biblioteca Vallicelliana, Roma (フランチェスコ・ボッロミーニ『オプス・アルキテクトニクム』). ボッロミーニとオラトリオ会士のスパーダ司祭が、協働で建築書を出版しようとしたが、1646年頃から制作に取りかかったが、実現に至らず、残された手稿や図面をもとに、1725年にジャンニーニにより出版された。
- 6) Wien, Albertina, Az Rom886.
- 7) ボッロミーニが、ローマ大学の建物であるパラッツォ・デッラ・サピエンツァ Palazzo della Sapienza の計画を受託したのは、1632年にまで遡る(注24を参照)。実際に建設活動が開始されたのは、1642年以降であった: *Ragguali*, 1968, pp. 131-33, nn. 197-200. 同大学の図書館は、教皇アレクサンデル7世(在位期間 1655-67年)の名に由来し、アレッサンドリーナ図書館 Biblioteca Alessandrina と称する。
- 8) Pecchiai, Pio, *Il Gesù di Roma*, Roma, Società Grafica Romana, 1952, pp. 4-14; Nolli, Giovanni Battista, *Roma (Pianta Grande)*, 1748: *Le piante di Roma*, a cura di Frutaz, Amato Pietro, Roma, Istituto di Studi Romani, 1962, vol. III, tav. 410.
- 9) Pecchiai, *ibidem*, p. 295 e segg; Pirri, Pietro, *Giovanni Tristano e i primordi della architettura gesuitica* (Biblioteca Istituti Historici S. J., Vol. VI), Roma, Institutum Historicum S. J., 1955, pp. 138-59; Haskell, Francis, “The Role of Patrons: Baroque Style Changes” , in Wittkower, Rudolf (ed.), *Baroque Art - The Jesuit Contribution*, New York, Fordham University Press, 1972, pp. 51-62. ファルネーゼ家の教皇パウルス3世(アレッサンドロ・ファルネーゼ Alessandro Farnese, 1468-1549年)の他、その親族で同名の枢機卿アレッサンドロ・ファルネーゼ・イル・ジョヴァネ Cardinale Alessandro Farnese il Giovane (1520-89年)が、イエズス会の活動や建築・美術に強く関与した。ボッロミーニだけでなく、オラトリオ会士たちもまた、オラトリオ会の建築を、イエ

- ズス会のような「壮麗なものをつくるにふさわしい枢機卿の方々によって建てられた」ものとは異なり、簡素な建物で十分であると、イエズス会の建築と比較して考えた。 *Opus, op. cit.*, 1725, Cap. V.
- 10) Pirri, 1955, *op. cit.*, pp. 11-12; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 34-35.
 - 11) Pirri, *ibidem*, pp. 12-16; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 35-39.
 - 12) Pirri, *ibidem*, p. 12, pp. 160-69.
 - 13) Pirri, *ibidem*, p. 15.
 - 14) Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 38-39, fig. 3.
 - 15) Bailey, Gauvin Alexander, "Le style jésuite n'existe pas: Jesuit Corporate Culture and the Visual Arts", in *The Jesuits - Cultures, Sciences, and the Arts, 1540-1773* (ed. By John W. O'Malley et als.), Toronto, Buffalo and London, University of Toronto Press, 1999, pp. 39-44.
 - 16) Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 40-41.
 - 17) Pirri, Pietro, *Giuseppe Valeriano S. I. Architetto e pittore 1542-1596* (Biblioteca Istituti Historici S. J., Vol. XXXI), Roma, Institutum Historicum S. J., 1970, pp. 53-75; Fossi, Mazzino, *Bartolomeo Ammannati architetto*, Napoli, Morano editore, 1967, pp. 140-49; Bösel, Richard, *Jesuitenarchitektur in Italien (1540-1773)*, I, Wien, Verlag der Osterreichischen Akademie der Wissenschaften, 1985, pp. 180-211; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 42-50.
 - 18) Tempesta, Antonio, *Roma, 1593: Le piante di Roma*, a cura di A. P. Frutaz, 1962, *op. cit.*, vol. II, tavv. 262, 265; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 50-51.
 - 19) Maggi, Giovanni, *Iconografia di città di Roma, 1625: Le piante di Roma, ibidem*, vol. II, tav. 315; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 50, 53.
 - 20) 1650年にサンティニャツィオ聖堂が開かれ、その内部には、イエズス会士のアンドレア・ポッツォ Andrea Pozzo (1642-1709年)により、天井画とクーポラのだまし絵が描かれた。
 - 21) Tempesta, Antonio, *Roma, 1661/62: Le piante di Roma, op. cit.*, vol. III, tavv. 338, 340; Letarouilly, Paul, *Édifices de Rome moderne*, tome I, Paris, 1840, Pl. 172; London, The Architectural Press, 1982; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 54-56.
 - 22) Gräsel, Arnim (traduzione di Capra, Arnaldo), *Manuale di Biblioteconomia*, Torino, Firenze, Roma, 1893, p. 31. Fig. 3.
 - 23) カトリックに改宗したスウェーデンの女王クリスティーナ (1626-89年) は、1656年の2回目のローマ来訪において、同年の1月18日にコッレージオ・ロマーノを訪れ、建物内を見学して回った。2月1日にもコッレージオ・ロマーノを訪れた女王は、直ぐに図書館と、1651年にその上階に創設されたアタナシウス・キルヒャーの博物館を見学した。 Gualdo, Galeazzo, *Historia della Sacra Real Maestà Christina Alessandra Regina di Svezia*, Roma, 1656, pp. 276-283; Gorman, Michael John, "From 'The Eyes of All' to 'Useful Quarries in philosophy and good literature': Consuming Jesuit Science, 1600-1665" , in *The Jesuits*, ed. By John W. O'Malley et als. 1999, *op. cit.*, pp. 170-189; Vetere - Ippoliti, 2003, pp. 67-68, 74-78.
 - 24) 実際に計画が始動したのは、1642年であっ

- たが、1632年にボッロミーニは、ベルニーニの推薦により計画を委託され、既に教会堂を考案していたとされる。*Ragguali*, 1968, pp. 131-33, nn. 197, 198; Pampalone, Antonella, *Il Palazzo della Sapienza* (Palazzi di Roma anno 1, N. 1/2), *Iride per il terzo millennio*, 2010, pp. 28-29, 33.
- 25) Pampalone, *ibidem*, pp. 38-41.
- 26) ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 71v; *Ragguali*, 1968, p. 230; Connors, 1980, p. 155, Doc. 23a.
- 27) ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 90r-v; *Ragguali*, 1968, pp. 229-30, n. 205. さらに、カルターリは、1667年10月15日と、1676年5月8日に、ボッロミーニの担当後に拡張されたヴァッリチェッリアーナ図書館を訪れた。ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 92r; *Ragguali*, 1968, p. 230; Connors, 180, p. 155, Doc. 23c.
- 28) ASR, Cartari - Febei, vol. 185, cc. 76v, 77; *Ragguali*, 1968, p. 230.
- 29) ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 110; *Ragguali*, 1968, p. 231; Connors, pp. 155-56, Doc. 23d.
- 30) Connors, 1980, pp. 49-50.
- 31) ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 95; *Ragguali*, 1968, p. 231.
- 32) ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 72v; *Ragguali*, 1968, p. 230.
- 33) カルターリとボッロミーニは、さらに、ナヴォーナ広場付近でその北方に建つパラッツォ・アルテンプス Palazzo Altemps の図書館を訪れた。ASR, Cartari - Febei, vol. 185, c. 78; *Ragguali*, 1968, p. 231. 本稿においては、この記録を直接取り上げてはいないが、これを含めて、カルターリが図書館を訪れ観察した内容を分析した。
- 34) 本稿「史料」より。1 passo を足の歩幅1歩の約74 cm として計算すると、50 passi は、約 37 m となる。アレッシンドリーナ図書館については、1720年に出版されたボッロミーニの建築書に収められた最終頁の平面図を測ると、図書館の奥行は約 37 m 7 cm、幅は約 10 m 59 cm である。また、断面図 (XLV) においても、幅は、約 10 m 33 cm と、10 m 程度である (コーニスの下までの高さが約 8 m 53 cm、アーチまでの高さが約 13 m 69 cm、ペンテンティヴ・アーチを含めて描かれた高さが約 15 m 81 cm である)。Borromini, Francesco, *Opera del Caval. Francesco Borromino Cavata da Suoi Originali cioè La Chiesa, e Fabrica della Sapienza di Roma ...* (edizione di Sebastiano Giannini, Roma, 1720), XLV (Biblioteca Alessandrina), XLVI (la pianta). 上記の寸法は、ニコラ・フォルリ Nocola Forli が描いた1667年の図書館の断面図における幅・高さの数値とも、おおよそ同じである: Verdi, Orietta (a cura di), *La fabbrica della Sapienza - l'università al tempo di Borromini*, Roma, CROMA - Università degli Studi di Roma Tre, 2015, Tavv. 17-18.
- 35) Connors, 1980, p. 155, Doc. 23a.
- 36) 1 パルモは、約22.3 cm。Borromini's Book— *The "Full Relation of the Building" of the Roman Oratory by Francesco Borromini and Virgilio Spada of the Oratory* (Translated with a commentary by Kerry Downes), UK, Wetherby, Oblong Creative Ltd., 2009, p. 474, fig. 49.
- 37) *Ibidem*.
- 38) 本稿「史料」より。

39) ボッロミーニは、コッレージオ・ロマーノの平面計画をよく理解していた。*Opus*, 1725, *op. cit.*, Cap. II.

40) 現在のコッレージオ・ロマーノの図書館の本棚は、木造の大オーダーによるピラスターがヴォールト天井の迫元まで延び、それを分断して手摺付の歩廊が巡る2層構成である。しかし、カルターリによると、当時は本棚に、さらに4段を上重ねる余裕があったということなので、視察時には、本棚の高さは、現在よりかなり低く、上方には天井まで十分な空きがあったことになる。

また、コッレージオ・ロマーノの図書館の長手方向の東側には、イエズス会士の読書室(図1、2、3)が隣接し、南方に向かって並行するが、これについてカルターリの手記には、1パルモ(22.3cm)の机があるのみと記される。

41) 注35を参照。

42) *Opus*, 1725, *op. cit.*, Cap. XXVIII.

43) 注29を参照。

44) 本稿「史料」より。

45) 本稿「史料」より。

46) 本稿「史料」より。

図版出典

Fig. 4: ウィーン・アルベルティーナ美術館、素描版画資料室、整理番号 886 (Albertina, AZ Rom 886).

Fig. 5: Nolli, Giovanni Battista, *Roma* (Pianta Grande), 1748 (*Le piante di Roma*, a cura di Frutaz, Amato Pietro, Roma, Istituto di Studi Romani, 1962, vol. III, tav. 410).

Fig. 6a, 6b: Tempesta, Antonio, *Roma*, 1593 (*Le piante di Roma*, a cura di A. P. Frutaz, *ibidem*, vol. II, tavv. 262, 265).

Fig. 7: Maggi, Giovanni, *Iconografia di città di Roma*, 1625 (*Le piante di Roma*, *ibidem*, vol. II, tav. 315).

Fig. 8: Tempesta, Antonio, *Roma*, 1661/62 (*Le piante di Roma*, *ibidem*, vol. III, tav. 340).

Fig. 9: Letarouilly, Paul, *Édifices de Rome moderne*, tome I, Paris, 1840, Pl. 172 (London, The Architectural Press, 1982).

Fig. 10: Gräsel, Arnim (traduzione di Capra, Arnaldo), *Manuale di Biblioteconomia*, Torino, Firenze, Roma, 1893, p. 31. Fig. 3.

Fig. 1, Fig. 2a, Fig. 2b, Fig. 3, および注の図1、図2、図3は、筆写撮影。

謝辞

本稿において、史料の解説にあたり、ローマ大学建築学部建築史・意匠計画・修復学科で、ローマ・バロック期の建築史がご専門のアウグスト・ロカ・デ・アミチス教授 Professore Augusto Roca De Amicis, Università degli Studi di Roma "La Sapienza", Facoltà di Architettura, Dipartimento di Storia, Disegno e Restauro dell' Architettura と、元ヴァツリチェッリアーナ図書館司書のロレンツォ・アッバモンディ氏 Lorenzo Abbamondi, già



図1 イエズス会士の読書室前室(東方から、図書館への出入口を見る)



図2 イエズス会士の読書室前室と大円柱（大円柱の間の階段を降りたところが読書室）



図3 イエズス会士の読書室（大円柱の間に立ち、階段上部から南方を見通す）

Bibliotecario Direttore Coordinatore della Biblioteca Vallicelliana di Roma に、ご親切にご指導いただいた。心より感謝申し上げます。

史料

カルロ・カルターリによるコッレージオ・ロマーノの図書館の視察記録

(ASR, Cartari-Febei, vol. 185, c. 72v.)

"Li xviii di marzo 1660 viddi la libreria del Collegio Romano, quale di lunghezza

è passi 50 in circa, che viene ad essere lunga quanto quella della Sapienza; è però più stretta, e più bassa; è in volta con certi sorti di chiaro oscuro; le scanzie sono di disegno ordinario, uguali, sono di un sol'ordine, diviso in otto; sarebbero capace di altri quattro.

Sopra l'ultimo ordine, sono molti fasci di portioni di Rossi; a' capo la libreria si vede il Ritratto in tela d'Imperatore d'Mons.

Corsini. Le scanzie sono seguite //per altezza // si vi è vano per studiare, ma

solo vi è un risalto di tavola d'un palmo. In sala di libreria vi sono diverse p scanzie, con libri, in forma di pul-

piti di Notaro (notaio), che anco servono per studiare: le scanzie sono

seguite anco per lunghezza, et il lume delle ecetto in qualche parte di un superiore di esse dove incontrano le finestre,

che pigliano il lume da alto. A' ogni scanzia di materie, distinte con ~~bande~~ cartelle, che hanno i suoi titoli,

si vede il suo libro di Indie. ..."

* 下線部分は、Del Piazzo, *Ragguali Borrominiani*, 1968, p. 230.